



▲2月9日 法座にて  
金安一樹師(最後列左)

◀2月23日 法座にて  
大野孝顕師

No.555  
3・4  
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

# しんらん同人

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

最近、某俳優の浮気に対するSNSに書き込まれた言葉に目が留まりました。

「浮気をした主人に突き刺さる言葉は、ありませんか?」との問い合わせに対しての返事「旅行(浮気)も、帰る家があるから楽しいのよ!」と言つてはどうですか」深い言葉です。

私の人生は今まで山あり谷あり・これからも新たな山や谷に出会う長い旅(もしかして一瞬かもしれません)です。嬉しい事も悲しい事も多くの別れも待っていることでしょう。しかしながら帰る場所・家があると思える事は、何と安心なことでしょうか。そう思いながらも、では家に帰ることが嬉しいかと問われればそうとも思えない気もします。

こうした思いが何なのかを自問して  
いた時に、本号に掲載しました故岡  
本泰雄師のご法話を思い出し、念佛  
者の安堵の心を聞かせていただいた次  
第です。





誓願寺初代住職 故岡本泰雄 法話

半年ほど前に肺がんとの診断を受け、放射線治療で入退院を行つて昭和六十一年七月の定例法座での法話です。

## 「淨土へ参りたき心」



本日は「歎異抄第九条」についてお話をしたいと思います。

ひとつ「念佛申しそうらえども、踊躍歡喜の心おろそかにそろうこと、また急ぎ淨土へ参りたき心のそらわぬは、いかにそらうべき事にてそらうやあらん」と、申し入れてそういうしかば、「親鸞もの不審ありつるに、唯円房、同じ心にてありけり。よくよく案じみれば、天におどり、地におどる程に喜ぶべき事を、喜ばぬにて、いよいよ往生は一定と思いたまうなり。喜ぶべき心を抑えて、喜ばざるは、煩惱の所為なり。しかもに佛かねて知ろしめして、煩惱具足の凡夫と仰せられたる事なれば、他力の悲願は、かくのことし、我らが為なりけりと知られて、いよいよ頼もしく覺ゆるなり。

唯円坊と親鸞聖人の対話になつていまして、唯円坊が恐る恐る親鸞聖人に尋ねました。「念佛を申しておりますのに躍り上がるような喜びが湧いてきません。また有難いことだな、うれしいことなど、飛び上がるような思いが起つてまいりません。急いで淨土へ参りたいとも思いませんのは、どうしたことでしょうか」現実に私がそういう気持ちであります。

唯円坊が私の代わりに言つてくれたような気持ちであります。本当に早くお淨土に参りたいとも思わないし、嬉しくてたまらないという気持ちも起つてこないのはどうしてでありますか。とお尋ねもうしたところが、親鸞もあなたと同じである、どうしてだろうかと不審を抱いておりましたが、唯円坊も私と同じだったんですね。いよいよ本当に喜ばなくてはならんと思うんだけども喜べない。しかし、よくよく考えてみると、天に踊り、地に踊るほどに喜ばねばならんことを喜べないから、いよいよ往生は間違いないであります。

このところは、ちょっとわかりにくいですね。喜ぶ者が救われて

婆の縁尽きて、力なくして終るときに、かの土へは参るべきなり。急ぎ参りたき心無き者を、ここに哀れみたまうなり。これにつけてこそ、いよいよ大悲大願は頼もしく、往生は決定と存じそらえ。踊躍歡喜の心もあり、急ぎ淨土へも参りたくそらわんには、煩惱の無きやらんと、怪しくそらいなましと云々

簡単に訳させていただきますと

唯円坊と親鸞聖人の対話になつていまして、唯円坊が恐る恐る親鸞聖人に尋ねました。「念佛を申しておりますのに躍り上がるような喜びが湧いてきません。また有難いことだな、うれしいことなど、飛び上がるような思いが起つてまいりません。急いで淨土へ参りたいとも思いませんのは、どうしたことでしょうか」現実に私がそういう気持ちであります。

唯円坊が私の代わりに言つてくれたような気持ちであります。本当に早くお淨土に参りたいとも思わないし、嬉しくてたまらないという気持ちも起つてこないのはどうしてでありますか。とお尋ねもうしたところが、親鸞もあなたと同じである、どうしてだろうかと不審を抱いておりましたが、唯円坊も私と同じだったんですね。いよいよ本当に喜ばなくてはならんと思うんだけども喜べない。しかし、よくよく考えてみると、天に踊り、地に踊るほどに喜ばねばならんことを喜べないから、いよいよ往生は間違いないであります。

このところは、ちょっとわかりにくいですね。喜ぶ者が救われて

いくと考えておりますのに、喜べないから往生は間違いない。そこで喜ぶべきことを喜ばせないのは、激しい煩惱のなすわざである。激しい煩惱が、お淨土に参らせていただくんだという喜びの心を、押さえてしまっているんです。

言い直したら、煩惱の激しさということや、何と言つても、この世に執着して、妻や子供、兄弟、親子と別れたくないという思いがあるということは、これ煩惱の働きでありますね。

だから、喜ばせざるは煩惱の所為なり、しかしながら、如來様は、ずっと前から、ご存知であつて、煩惱具足の凡夫と仰せられることなれば、本当に如來の本願は、煩惱のない者ではなくて、煩惱の激しい者を、そういう者を救おうという願にましますのでありますから、いよいよ頼もしく思われる事であります。本当によくよく味わつてみると有難いことでありますね。

喜べないからだめだぞ、といふのでなくて、喜べないどこまでも煩惱に災いされながら、あくせくしているお前を救わなきや佛にならんぞと誓つて下さる如來の本願であります。

他力の悲願は、かくのとくの我らがためなりけりと知られて、いよいよ頼もしくおぼゆるなり。また、淨土へ急ぎ参りたき心はなくて、ちよと病気でもしようものなら、死ぬのじやないかなあと心細く思うことも煩惱のなすわざであります。

遠い昔から、迷いに迷い続けてきたこの世です。本当に長い間お世話になったこの人生であります。苦しみのこの世界は捨てがたい、いまだ生まれざる安養の淨土は恋しからず候。行つたことのない淨土は恋しいと思わないのは、なんと激しい煩惱なのであろうか。

いよいよとなれば、どんなに名残惜しく思つても、娑婆の縁が終わりとなつて、この世を去つていかねばならなくなる、力なくして終るとき、喜んでじやありません、がつかりしてですね、お淨土に参らせていただくのであります。

早くお淨土へ参りたいと思はない者をことに哀れんで下さるのが阿弥陀仏様の願であります。その阿弥陀様の心を頂いてみると、逃げ回つてゐるこの私こそ如來の目当てであつたのかといふことが知られてまいりますと、いよいよ大悲大願は頼もしく、往生は間違いないと思うべきであります。

飛び上がるような喜びがあつたら、あるいは嬉しくてたまらないというようなことであるならば、それは煩惱がないからではなかろうかとあやしく思われる事であります。

こういうふうに親鸞聖人はお考えになつていらっしゃいますね。本当にこれを頂戴してみると、私の心境そのままでありまして、お前は喜べない、本当に喜べないんです。有難いなど思えない。お淨土に行かしていただきんだということを聞かしていただいておるんだけれども、早く行きたいとは思ひませんね。相変わらず煩惱の火を燃やしながら、あくせくと毎日を送つてゐるのでありますが、だから、これはだめだ、ではなくて、こういう者をこそ、ここに哀れみたもうなり。殊に可哀そうだと思つて下さる。そういう願でありお慈悲であることを思ひますときに、ただ念佛申すよりほかにないのであります。

南無阿弥陀仏。 南無阿弥陀仏

## 【ご法座等のご案内】

3月

新型コロナウイルス 感染拡大防止  
のため3月8日の法座 3月15日  
のなかよしクラブを中止致します。

3・8  
(日)

法座は中止致します。

3・15  
(日)

なかよしクラブは中止致します。

3・22  
(日)

午後一時

彼岸会法要 祥月命日合同法要  
【葦田誓子師】

\*新型コロナウイルスの状況によって  
中止となるかもしれません。  
ご了承ください。

4月

花まつり 上野隆平師  
4・12  
(日)

午前十時

4・19  
(日)

医療相談 佐藤公彦医師  
正午

午前十時  
なかよしクラブ  
(乳幼児から小学生まで)

4・26  
(日)

午後一時

定例法座 祥月命日合同法要  
【山上正尊師】

### 一言法語

「過去・現在・未来」仏教ではこれを「三世」(サンゼ)といいます。過去は過ぎ去ったもの。現在は生起したもの。未来はまだ来ないものという意味です。しかし、これらの言葉のどこにも「時」という言葉が見当たりません。それは、時間というものを実態としてあつかわず、存在するものの変遷としてとらえるからです。過去は現在の原因として、未来は現在の結果としてあるのですから、現在を大切にします。

過去を悔い、未来を待たず、現在を大切に踏みしめよ！

### 編集後記

連日、新型コロナウイルスによる感染拡大と予防対策が報道されています。「しんらん同人」次号が作成される頃の状況さえ、全く予測が出来ない深刻な事態です。各自の自助努力が求められていますが、手間を惜しまず出来る事は実行しましょう。

- 記録的な暖冬も過ぎましたが、異常気象、今度は夏から秋にかけての災害が心配です。
- 先日、終活講座を受講しました。気がかりなことはドンドン片付けましょう。